



元気いっぱい (内原保育所 運動会)

議会だより



小さな冊子にあふれるニュース

第123号 平成22年10月25日

まちづくりに応えられたか

21年度決算 2p

鳥獣害対策

一般質問 6p

みちしおの湯 早期改革を

委員会レポート 7p



内原小学校 運動会

【発行】 日高町議会 〒649-1213 和歌山県日高郡日高町大字高家626

【編集】 議会広報特別委員会 TEL (0738) 63-3810 Eメール gikai@town.wakayama-hidaka.lg.jp

21年度決算認定

安心して豊かに暮らせる

まちづくりに応えられたか!!

一般会計歳出決算 **39億7,195万円**
特別会計歳出決算 **14億8,473万円**

主な特別会計歳出決算額

国民健康保険特別会計	2億4,075万円
老人保健特別会計	613万円
下水道事業特別会計	5億2,286万円
介護保険特別会計	5億5,356万円
後期高齢者医療特別会計	1億6,143万円

水道事業会計

営業収益・営業外収益から営業費用・営業外費用を引くと520万円の黒字決算である。

給水戸数	3,195戸 (20戸の増加)
給水人口	7,788人 (5人の増加)
年間総給水量	79万3,857t (1,165tの増加)

(平成22年3月31日現在)

平成22年度第3回定例会は9月7日から9月16日までの10日間の会期で開催した。今定例会では平成21年度一般会計、特別会計の決算を認定。
 また、平成22年度関係、発議1件、報告2件、同意2件、議案7件が提案され、慎重審議の結果、原案のとおり同意可決した。

監査委員の意見

審査の意見

決算の財政事情を見ると、依然として依存財源による財政事情に変わりはない中で、定額給付金や経済危機対策などの臨時交付金事業、緊急雇用対策事業等により決算規模が増額しているものの、財政に対する起債の負担割合が高くなっていることから、財政健全化計画に基づく行政運営を行い、住民福祉の向上に寄与されるよう望むものである。

・予算執行について

予算は、目的をもって計上し執行するものであるが、歳入決算において予算額と調定額に差があり、また、歳出決算において流用が見受けられる。あらかじめ補正対応を行い、適正に対処されたい。

・温泉館の運営について

入館者数が、年々減少傾向にある中で、臨時交付金事業により館の改修を行ったところであり、より一層の効率運営に努められたい。

・下水道事業について

町内全域の下水道事業が、多額の費用と時間をかけ完了したところであり、今後は、所期の目的が達成されるよう接続率の向上に努められたい。

21年度決算質疑

一般会計

問 保育料の収入未済額が3名で45万となっているが、その後の状況は。

住民福祉課長 その後9万3300円を収納して残り35万7600円となっているが、少しずつでも納付してもらえよう努力していく。



完成した阿尾陸こう鉄扉

問 町税で不納欠損額143万4593円、それぞれの内訳と理由

は。

税務課長 所在不明と無財産処理であり、個人住民税で7名の12件、固定資産税で12名の18件、軽自動車税で4名7件である。

問 入湯税、温泉館使用料で予算規模と調定額に大きな差が出ているが、補正すべきではなかったのか。

総務政策課長 同じ指摘が監査委員からもあった。今後は補正対応により対処したいと考えている。

問 交通安全対策工事請負費で不用額がでているが、各地区からの要望に十分応えた上での不用額か。

総務政策課長 そのとおりである。

現在のところは要望額が、200万円を切るような状態が続いている。

問 県地方税回収機構負担金が支出されているが、その成果は。

税務課長 回収機構へ移管した件数は10件であり、



完成した産湯防潮堤補強工事

専門的な知識を要する件については、回収機構にお願いするのが実態である。

町内消費の観点から町内業者は、**教育次長** 登録業者が24社の内、町内は3社となっている。

問 学校給食の材料費3880万円となっているが、産業振興の面から又、

問 経常収支比率が、昨年より4.5ポイント減って

90・9%と下がってきた要因と、今後の見込みは。

総務政策課長 実質交付金1億円の増額と御坊ふるさと圏の1億円の返還が要因であるが、依然として依存財源に頼る財政状況の中、今後の普通交付税の動向等が大きく左右されるので、今後も予断を許さないのもと考えている。

賛成討論

21年度の年間を通して予算執行がされる中で、あらゆる問題が残されている面はあるが、大きく転換をしてきた。

保育所を直営で運営すること、雇用対策では、県の雇用対策基金の活用、海水浴場の駐車場用地の購入等、当初予算から改善されてきた中で執行がされたことをもって賛成討論とする。

西岡 佳奈子 議員

教育委員会委員

教育委員会委員に、吉田隆一氏(再)を任命することに同意した。



吉田 隆一 氏 (高家)

特別会計

国民健康保険

問 収入未済額1291万3千円の内訳は。

【税務課長】 現年分で47世帯48件、滞納繰越分では48世帯95件となっている。

問 地方税回収機構へ何件移管されているか。

【税務課長】 21年度分で5世帯188万円分、特に悪質な方について移管している。

問 資格証明書、短期証の交付状況は。

【税務課長】 資格証明書で12世帯、短期証で6世帯となっている。



津村 安雄 氏

固定資産評価委員に

固定資産評価審査委員会委員に津村 安雄氏(下志賀)を再任することと同じ意図した。

下水道事業

問 収入未済額11万4600円の内訳は。

【上下水道課長】 浄化槽使用料で3人の5万4400円、集落排水使用料で4人の6万2000円となっている。

問 現在はどようになっているか。

【上下水道課長】 浄化槽使用料については完納であり、集落排水では3人が完納で、1名3万7800円が未納となっている。

問 集合型各処理区での接続率がのびていないが努力しているのか。

【上下水道課長】 今後更に努力していく。



谷口小池処理場

議会発議

議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例

これまで、議員改選や辞職等により、当該月の在職期間が1ヶ月に満たない場合でも議員報酬を全額を支給していたが、支給基準の適正化を図り、町長、職員同様に日割り計算による支給にするための条例改正。

集合型処理区接続率 (平成22年3月31日現在)

	加入戸数	接続戸数	接続率
阿尾・産湯処理区	283	249	88.0%
比井処理区	177	141	79.7%
小浦処理区	74	66	89.2%
谷口・小池処理区	315	240	76.2%
内原東処理区	839	360	43.0%
計	1688	1056	62.6%

22年度補正予算

一般会計

既定の予算額に、5079万円を追加し、総額35億1426万1千円とする。

主な内容は、国保日高総合病院負担金2873万6千円、農地制度円滑化事業費156万5千円、中山間地域等直接支払い事業交付金491万6千円、雇用再生特別基金活用事業費383万3千円、農業用施設災害復旧事業委託料714万円等



国保日高総合病院



問 農地利用状況調査及び農家意向調査の目的と実施方法は。

産業建設課長 現在遊休農地等が増えてきている中、その利用状況と農家の意向を調査し、今後の対策のため、農業委員会が実施する。

問 商工総務費の地域商品インターネットウエブサイト作成及び管理運営委託料の詳細説明。

産業建設課長 ふるさと雇用を利用し、新たな市場の確保またPRの拡大等含めて、インターネット販売できるようなサイトを構築するものであり、今年産湯海水浴場で立ち上げた地域振興株式会社に委託したいと考えている。

賛成討論

今回の補正で、農業委員会費で農地利用状況調査及び農家意向調査賃金並びに農家台帳更新委託料、それからまた商工費で地域商品インターネットウエブサイト作成及び管理運営委託料、いずれも全額補助事業で採択され、予算計上されている。そういった努力を評価するところであります。

今後は、これのみに終わることなく、この成果を十二分に検討され、地域の活性化・産業振興に更に積極的に取り組まれることを大いに期待して賛成討論とする。

楠 新一議員

特別会計

下水道事業

既定の予算額に、2059万5千円を追加し、総額3億2443万3千円とする。

主な内容は、県道比井紀伊内原停車場線（比井地内）の拡幅工事に伴い、管路及び中継ポンプ移設工事で1050万円、下水道基金積立金で1124万3千円の増額。



中継ポンプ移設工事（比井交差点）

問 移設工事中、下水道の使用に影響はないのか。

上下水道課長 先に新たにポンプ、管路を新設し出来るだけ短時間で継ぎ込む工法を予定している。

問 県道拡幅工事に伴う移設工事であり県からの補償はあるのか。

上下水道課長 減価償却をふまえた中で県とも話し合いをしており補償費はあるものと考えている。

未来をきずく

Q & A いっばん質問

猟銃の免許に補助を

町長 十分検討する

西岡 佳奈子 議員



問 鳥獣害対策についての考え方は。

町長 被害の続出については十分認識し、対策に苦慮している。

現在の対策を継続しながら、有効な手段を考え、

実施し、地域のみなさんとの連携を密にし取り組んでいく。

問 昨年、日高町の会場で狩猟免許の取得・更新ができたが、継続的に中

紀地方でというのは難しいか。

町長 県に対しては「引き続き続いて」とお願いをしているが、講師の関係などで毎年は難しいと聞いている。

しかし「時期をみて取り組みたい」という答えもいただいているので、再度県へ要望したい。

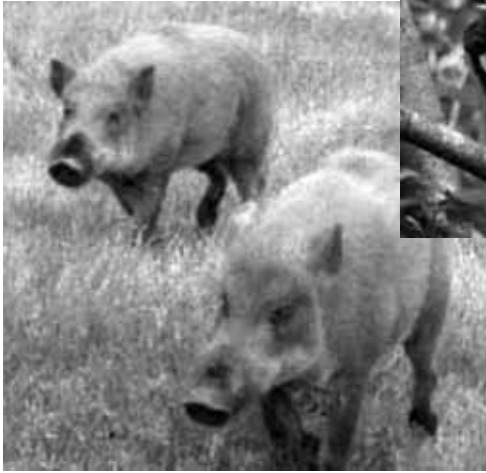
問 印南町が銃の狩猟免許取得について補助をするという報道があった。

猟銃の免許取得、購入、保管には高額の費用がかかると思う。

また、免許所持者の高齢化もあると思う。何らかの補助ができないか。

また、役場職員が免許を取得したり、期間を決めて猟銃免許所持者を臨時雇用するというような

被害は深刻



防災ラジオの配置を

町長 猟銃免許への補助については十分検討したが、補助するという結論にはなっていない。もう一度十分検討する。

問 防災行政無線放送について、防災の役割での放送について考えた時、「聞こえない」「聞こえない」という人が少なからずいるという状況を軽視すべきではない。

普段は聞こえていても、台風など風雨が強いと、屋外の放送は聞こえにくくなる。

戸別の受信機や防災ラジオの配置など、現状の改善を。

町長 「聞こえない」などの対応は、従来より実施している戸別受信機の設置を継続する。

防災ラジオについては、ケーブルテレビの加入促進のほか、県において防災わかやまメール配信が実施されていることから、取り組む考えはない。

問 ケーブルテレビは停電すると見られないが、防災ラジオは、乾電池で受信することができる。

また、町民みなさんが、防災わかやまメール配信を受けられる携帯やパソコンを持っているわけではない。

一つの手段としてはいいが、町民全体には難しい。

総合的に考えると、防災ラジオが、効果としては大きいと考えるが。

町長 現時点では、ケーブルテレビ、また、防災わかやまメール配信を有効に使っていただきたい。

委員会レポート

産業教育常任委員会

当委員会は、去る7月27日、長野県南佐久郡小海町にある、町直営温泉「八峰の湯」を訪れ、施設責任者から運営及び経営状況等を詳細に聞き研修を行った。

小海町は八ヶ岳の北に位置し、施設の隣接にはスケートセンター、テニスコート、貸別荘、オートキャンプ場、又、美術館、音楽堂等々の文化的な施設も整備され、一帯がトータル的なレクリエーション地となっている環境的に申し分無い町であるが過疎の町でもある。当温泉施設は2007年7月に開業し、丁度3年を経過したところの新しい施設で、すでに延べ50万人（年間17万人）の入館者があり活況を呈していた。

入館料金は大人5000円・子供2000円で運営しているが、町民には特別に町民カード提示で、

大人3000円子供1000円にし、町民が町外の人を温泉に連れてきたときには、町民接待の名目で町民と同じ料金にしてあげたり、又年間パスポートを2万円で販売するな

ど、町民福祉の為、並びに入館者を増やす施策を導入していた。

早期改革を

みちしおの湯

結果、入館者の利用状況は、町外60%、町内利用40%となっており日高町の町内利用者10%程度とは大きな違いであった。

売上げ規模は年間1億8千万円程度の温泉であるが、入館料約5万円に対し、レストラン売

り上げが約8千5百万円、売店及び産直品売り上げが約4千万円もあり、すべて町直営の為、入館料は安く設定しているが他で稼いでいた。

職員数は町職員1名の他26名は臨時職員とパートでまかなっているが、年間の定休日

は無く、年末、年始も営業しているとのことであった。又夏場限定で早朝7時から朝風呂、夜10時までの夜風呂等ユニークな企画も取り入れ、敬老会等の団体を町のバスで送迎等、

日高町と同じ町直営でありながら担当責任者の考え方一つで、運営方法がなぜこうも違うものか、当町の開業以来10年の運営方法がすべて否定された一日であった。

小海町は大企業も無く、過疎の町であるが故、温泉事業等を必死で営業努力をしたり、他にも町開発公社で数十人を雇用し、周辺施設等で働いており、温泉を若い人の雇用確保



八峰の湯での研修

としての位置づけを作っていた。損益状況は、若干赤字（1千万程度）は出しているものの、事業規模、町民利用状況、数十人の町民雇用確保等の状況から勘案すると、意見の分かれるところであるが許容範囲かとも感じた。

いずれにしても日高町温泉館については、今年で10年が経過したが、町民利用者が少ない上、入館者は減少傾向に歯止めがかからない、今年度も前年の10%減の推移をしているので大幅赤字は明らかである、議員からは再三にわたり運営面での改革を要望してきたが、未だに何も手を打たないでいる。

設立時の起債償還も来年度ですべて完了するにあたり、この辺ですべての仕組みを見直し、新たなスタートにしてはとの委員会での意見が多かった。

委員会レポート

総務福祉常任委員会

想像できない地滑りの怖さを痛感



埋没した住宅

7月26日議会常任委員会は合同で新潟県長岡市（旧山古志村）を訪問視察した。

平成16年10月23日発生した中越地震で大きな被害を受けた地域である。この地震は直下型地震でマグニチュード6.8で観測史上最大震度7を記録した巨大地震である。死者は68人、負傷者は4千795人で、住宅被

害は全壊3千175棟、その他半壊等を含めると実に12万棟を超えた。

6年後の視察であるため崩落した山肌等には草木が繁り緑が戻って来ているが、新設された道路の近くには崩落で陥没した以前の道路や、宙に浮いたガードレールが地震の威力を物語っていた。

地震発生後のテレビ放送で2歳の子どもが92時間ぶりに救出される映像に私たちが衝撃を受けたところであるが、その崩落現場を訪れた際には山に面した場所の怖さを痛切に感じた。

今回の視察で特に感じたことは地震の大きさは基より、地滑りの規模の大きさと地滑りとは如何に怖いものだと痛感した。私たちが住んでいる日



大規模地すべり

高町も今後想定される南海・東南海地震が発生した時には海岸地域の津波に対する対策と、内陸部の山に面した集落に対しての備え等、地域にあつた防災意識の認識が大切であると全委員が痛感した。



編集後記

敵しかった夏の暑さも忘れそうになる秋。稲刈り、運動会、秋祭りも終わり、紅葉の季節に向かっていきます。豊かな自然と四季の移ろいは日本のほこりでした。けれど最近、国土が亜熱帯化してきているようです。降る雨はゲリラ豪雨となり、夏の暑さは人々の命を奪うほど。

秋の過ごしやすさの中で、今年の冬の寒さを心配するのは私だけでしょうか。

さて、定例議会ごとに発行している議会だよりですが、編集委員一同、毎回、苦勞しながら作成しています。今後も市民の皆さまのご愛読をお願いするとともに、是非、ご意見をお寄せ下さいませようお願いいたします。

西岡 佳奈子